

社会学部生のための文献引用の手引き

次のページから始まる「社会学部生のための文献引用の手引」は、社会学部の専門科目の課題レポートから卒業論文まで使う、引用の手続きをまとめたものです。

卒業までのすべてのレポートや論文は、この手引きの引用手続きのいずれかの方法を遵守して作成してもらいますので、ぜひ早いうちから慣れてしまいましょう。同じものは、いつでも学部ホームページで見ることができます。



社会学部生のための文献引用の手引き

三大原則

1. レポート・論文作成時の盗作厳禁
2. 自分の文章中で、文献や資料を参考にした箇所は明示すべし
3. 参考にした文献や資料は明記すべし

レポート・論文作成の際には、この三大原則に基づいた文献引用のルールを守らねばならない。守らない場合には、単位を落とす・評価が下がるなどの不利益を被っても文句は言えない。

引用には、元文献の記述をカッコ（「」）でくくってそのまま用いる「**直接引用**」と、元文献の記述を自分なりにまとめた「**間接引用**」がある。「間接引用」であっても、直接引用と同じく、参考にした文献の情報を本文中に必ず表示しなければいけない。

本文中に文献情報を表示する方式（文献挙示方式）には、大きく分けて次の2つがある。

I.注を付ける方式

II.簡略情報を表示する方式

担当教員から特別の指示がない限り、社会学部生は原則としてこのどちらかの方式に従わなければならない（教養科目等で別の方式を習った場合も、社会学部では本手引きに従うこと）。以下では、その2つの方式をそれぞれ具体的に説明する。また、両方の方式に共通して守らなければいけない原則も最後に説明する。

I. 注を付ける方式

(1)基本的な考え方

引用・参照文献についての情報（文献注）と本文の補足説明（説明注）を一括して表す。

(2)実際の手順

手順1:引用箇所の直後に、上付き 1/4 サイズの丸括弧数字(「(1)」など)で注をつける。

・・・橋爪大三郎によれば、「愛ゆえの結婚」というドグマが成立するためには、第一に、ピューリタンの性愛倫理が成立し、そのうえで、第二に、内面的な主体性が承認されなくてはならなかった⁽¹⁾。・・・・・・・・
・・・ミシェル・フーコーによればこの孤立化の積極的な効用に関して、トクヴィルは次のように主張しているという。「孤立状態に投げ込まれると受刑者は反省する。自分の犯罪にただひとりで直面すると、その犯罪を憎むことを学ぶのであって、その塊が悪によって無感覚になっていなければ、いずれ後悔がその塊を覆うようになるのは孤立状態においてである」⁽²⁾。

手順2:レポートの巻末に、各々の注に対応する中身(文献情報または本文の補足説明)を一覧表にして記す。

注

- (1) 橋爪大三郎『性愛論』岩波書店，1995年，pp.115-185.
- (2) フーコー，M. 『監獄の誕生：監視と処罰』（田村俣訳）新潮社，1977年，p.236.
- (3) ここでいう××とは・・・
- (4) 前掲(1)，p.120.

補足：①注の番号は通し番号にする。

②注は番号ごとに改行する。

③注(3)のようにして、論旨に直接関係はないが、本文でふれた事項をさらに補足説明する場合にも注は用いられる（説明注）。

④同一文献を再度引用する場合は、注(4)にあるように「前掲(1)，p.120」のように記す。これは、「注(1)で表示した文献の120ページを参考にした」、という意味である。

(3)注の中での文献情報表示形式

文献と一口にいても、色々な種類があり、それぞれ示すべき情報が微妙に違う。以下の原則に従い、過不足なく文献情報を表示しなければならない。

※著者が複数いる場合、記載された順に書く

※全体の内容を参考にした場合は、引用頁の記載は要らない

※該当頁は「p. ○」または「pp. ○-○」（複数頁にまたがる場合）と表記する

①**日本語単行本**：著者名『書名：副題』出版社名，出版年+年，p.+引用頁.

例)

小熊英二『単一民族神話の起源：〈日本人〉の自画像の系譜』新曜社，1995年.

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之『社会学』有斐閣，2007年，p.5.

②**日本語編書全体**：編者名+編『書名』出版社名，出版年+年.

例)

船橋晴俊編『講座環境社会学2：加害・被害と解決過程』有斐閣，2001年.

③**日本語編書の一部**：著者名「論文題名」，編者名+編『書名』出版社名，出版年+年，pp.+論文の初頁-終頁（p.+引用頁）。

例)

船橋晴俊「環境問題の未来と社会変動：社会の自己破壊性と自己組織性」，船橋晴俊・飯島伸子編『講座社会学 12：環境』東京大学出版会，1998年，pp.191-224（p.191）。

④**翻訳書**：著者名『訳書名』（訳者名+訳）出版社名，翻訳の出版年+年，p.+引用頁。

※著者名は、ファミリーネーム，ファーストネーム・ミドルネームのイニシャル。の順に並べる（以下同様）。

例)

フロム，E.『自由からの逃走』（日高六郎訳）東京創元社，1951年，p.256。

⑤**日本語雑誌論文**：著者名「論文題名」『雑誌名』巻(号)，出版年+年，pp.+論文の初頁-終頁（p.+引用頁）。

例)

山本泰「マイノリティと社会の再生産」『社会学評論』44(3)，1993年，pp.262-281（p.270）。

⑥**翻訳論文**：著者名「翻訳論文の題名」（訳者名），論文の所収された雑誌や単行本の情報（①～⑤参照），pp.+論文の初頁-終頁（p.+引用頁）。

例)

マッカーシー，J. M.・メイヤー，N. Z.「社会運動の合理的理論」（片桐新自訳），塩原勉編『資源動員と組織戦略：運動論の新パラダイム』新曜社，1989年，pp. 21-58（p. 23）。

⑦**外国語単行本**：著者名，_書名，_出版社名，_出版年，_pp。+引用頁。

※「_」は半角スペース（以下同じ）

例)

Parsons, T., *The Social System*, Free Press, 1951, pp. 1-25.

⑧**外国語編書**：編者名 ed.,_書名，_出版社名，_出版年，_p.+引用頁。

※編者が複数いる場合は併記して「eds.」とする

例)

Camagni, R. ed., *Innovation Networks: Spatial Perspectives*, Belhaven Press, 1991, p.30.

⑨**外国語編書の一部**：著者名，“論文名，”編者名 ed.,_書名，_出版社名，_出版年，_pp.+論文の初頁-終頁(p.+引用頁)。

例)

Beck, U., “Self-dissolution and Self-endangerment of Industrial Society: What Does This Mean?,” Beck, U., Giddens, A. and Lash, S. eds., *Reflexive Modernization: Politics, Tradition and Aesthetics in the Modern Social Order*, Blackwell, 1994, pp.174-183 (p.175).

⑩**外国語雑誌論文**：著者名, "論文名," 雑誌名_巻(号), 出版年, pp.+論文の初頁-終頁(p.+引用頁).

例)

Wrong, D. H., "The Oversocialized Conception of Man in Modern Sociology," *American Sociological Review* 26, 1961, pp.183-193 (pp.183-184).

⑪**年次刊行物**：編集機関名『題名』年次, p.+引用頁.

例)

経済企画庁『国民生活白書』平成6年版, p.101.

⑫**新聞**：「記事名」『新聞名』（年月日朝刊 or 夕刊）.

例)

「14歳『心の闇』」『朝日新聞』（1998.6.30朝刊）. ※執筆者名が明らかな場合は⑤⑥に準じる。

⑬**インターネット上の情報**：著者名（判明する限り），最終更新年（判明する限り），「題名」（URL）
閲覧年月日+閲覧.

例)

日本社会学会, 2006, 「日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針」
(<http://www.gakkai.ne.jp/jss/about/shishin.pdf>) 2017.2.9 閲覧.

例)

「明治学院大学社会学部」(<http://soc.meijigakuin.ac.jp/>) 2017.2.10 閲覧.

II. 簡略情報を表示する方式

(1) 基本的な考え

- ①引用・参照した文献の書誌情報を示す「簡略情報」を本文中に埋め込み、それに対応する「参考文献一覧」を文末に載せる。
- ②注は、原則として、説明注（本文の補足説明）としてのみ用い、文献注としては用いない（ただし例外あり）。

(2) 実際の手順

手順1: 簡略情報「(著者の姓_出版年:_引用ページ)」を文中に埋め込む(※「_」は半角スペース)

・・・そこで哲学者のエヴァ・フェダー・キテイは、互惠性を拡大した社会的協働として「ドゥーリア」⁽¹⁾ という原理の導入を提唱する。これは、「私たちが人として生きるためにケアを必要とするのと同時に、私たちは、他の人々——ケアの仕事をする人々を含む——が生きるのに必要なケアを受け取れるような条件を提供する必要がある」という原理である（キテイ 2010: 244）。そしてこの原理は、「ケア提供者(care-givers)とケア享受者(care-receivers)のウェルビーイングがともに社会関係のネットワークのもとで成立する」ことを前提とする⁽²⁾。

ただし、保育や医療の現場では、ケア提供者とケア享受者は必ずしも社会的協働の関係にはない（Kittay 2001; 岡野 2012）。2016年3月13日の朝日新聞の記事⁽³⁾では、朝日新聞デジタルのアンケート調査（回答数436）を元に次のような結果が報告されている。すなわち・・・

手順2: 論文もしくはレポートの末尾に注と参考文献表をつける

注

- (1) 「ドゥーリア (doulia)」とは、出産後、はじめて赤ん坊を世話することになる母親をサポートする人を指す「ドゥーラ(doula)」をアレンジしたキテイによる造語である（キテイ 2010:158）。
- (2) この点については、次の解説に詳しい。Sander-Staudt, M., "Care Ethics," *The Internet Encyclopedia of Philosophy* (<http://www.iep.utm.edu/care-eth/>), 2017.01.24 閲覧.
- (3) 「最期の医療、どう決める？」『朝日新聞』（2016.3.13 朝刊）。

参考文献（日本語）

岡野八代, 2012, 『フェミニズムの政治学』みすず書房.

キテイ, E.F., 2010, 『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』（岡野八代・牟田和恵監訳）白澤社.

参考文献（外国語）

Kittay, E.F., 2001, When Caring Is Just and Justice Is Caring: Justice and Mental Retardation, *Public Culture*, Volume 13, Number 3, pp.557-579.

補足：①日本語文献は姓の50音順、外国語文献は姓のアルファベット順とする。同一著者の場合は出版年順とする。同一著者で出版年が同じ書籍の場合は、「(山田 1996a: 95)」「(山田 1996b: 103)」などと、出版年にabc...をつけて区別する。

②著者が2名以上の場合は、「・」でつなぐ。3名以上いる場合は、2人目以下を「他」として省略してよい。なお、手順2で説明する参考文献表内では省略しない。

③新聞記事などで著者名が不明な場合は、本文中に簡略情報を記すことが困難なので、方式Iと同じように文献注を使ってもよい（上記「手順2」の「注(2)」および「注(3)」参照）。

(3)文末の参考文献一覧表の中での文献情報表示形式

※著者が複数いる場合、記載された順に書く

※全体の内容を参考にした場合は、引用頁の記載は要らない

※該当頁は「p. o」または「pp. o-o」（複数頁にまたがる場合）と表記する

①**日本語単行本**：著者名，出版年，『書名：副題』出版社名.

例)

小熊英二，1995，『単一民族神話の起源：〈日本人〉の自画像の系譜』新曜社.

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志，2007，『社会学』有斐閣.

②**日本語編書全体**：編者名+編，出版年，『書名』出版社名.

例)

船橋晴俊編，2001，『講座環境社会学2：加害・被害と解決過程』有斐閣.

③**日本語編書の一部**：著者名，出版年，「章題名」編者名+編『書名』出版社名，pp.+章の初頁-終頁.

例)

船橋晴俊，1998，「環境問題の未来と社会変動：社会の自己破壊性と自己組織性」船橋晴俊・飯島伸子編『講座社会学12：環境』東京大学出版会，pp.191-224.

④**翻訳書**：著者名，翻訳の出版年，『訳書名』（訳者名+訳）出版社名.

※著者名は、ファミリーネーム，ファーストネーム・ミドルネームのイニシャル.の順

例)

フロム，E.，1951，『自由からの逃走』（日高六郎訳）東京創元社.

⑤**日本語雑誌論文**：著者名，出版年，「論文題名」『雑誌名』巻(号)，pp.+論文の初頁-終頁.

例)

山本泰，1993，「マイノリティと社会の再生産」『社会学評論』44(3)，pp.262-281.

⑥**翻訳論文**：著者名，翻訳論文の出版年，「翻訳論文の題名」（訳者名+訳），論文の所収された雑誌や単行本の情報（①～⑤参照），pp.+論文の初頁-終頁.

例)

マッカーシー，J. M.・メイヤー，N. Z.，1989，「社会運動の合理的理論」（片桐新自訳），塩原勉編『資源動員と組織戦略：運動論の新パラダイム』新曜社，pp.21-58.

⑦**外国語単行本**：著者名，_出版年，_書名，_出版社名.

※「_」は半角スペース

例)

Parsons, T., 1951, *The Social System*, Free Press.

⑧**外国語編書**：編者名 ed.,_出版年,_書名,_出版社名.

※編者が複数いる場合は併記して「eds.」とする

例)

Camagni, R. ed.,1991, *Innovation Networks: Spatial Perspectives*, Belhaven Press.

⑨**外国語編書の一部**：著者名,_出版年,_"論文名,"_編者名 ed.,_書名,_出版社名,_ pp.+論文の初頁-終頁.

例)

Beck, U., 1994, "Self-Dissolution and Self-Endangerment of Industrial Society: What Does This Mean?,"

Beck, U., Giddens, A. and Lash, S. eds., *Reflexive Modernization: Politics, Tradition and Aesthetics in the Modern Social Order*, Blackwell, pp.174-183.

⑩**外国語雑誌論文**：著者名,_出版年,_"論文名,"_雑誌名_巻(号),_ pp.+論文の初頁-終頁.

例)

Wrong, D. H., 1961, "The Oversocialized Conception of Man in Modern Sociology," *American Sociological*

Review 26, pp.183-193.

⑪**年次刊行物**：編集機関名, 出版年, 『題名』年次.

例)

経済企画庁, 1994, 『国民生活白書』平成6年版.

⑫**新聞**：「記事名」『新聞名』（年月日朝刊 or 夕刊）.

※執筆者名が明らかな場合は明記する。電子版の新聞記事の場合は、⑬に準じる。

例)

「14歳『心の闇』」『朝日新聞』（1998.6.30朝刊）.

⑬**インターネット上の情報**：著者名（判明する限り），最終更新年（判明する限り），「題名」（URL）

閲覧年月日+閲覧.

例)

日本社会学会, 2006, 「日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針」

(<http://www.gakkai.ne.jp/jss/about/shishin.pdf>) 2017.2.9 閲覧.

例)

「明治学院大学社会学部」(<http://soc.meijigakuin.ac.jp/>) 2017.2.10 閲覧.

Ⅲ. 引用時の諸注意

(1)直接引用

元著者の表記を尊重し、誤字があっても、最大限原文通りに記載する。ただし、引用文中にカッコが用いられている場合、引用文中のカッコは引用を示すカッコ（「」）と区別するため二重カッコ（『』）に変更する。

(2)名前の表記法

Ⅱで説明した文献の簡略情報を表示する際以外に本文中に記載する人の名前は、初出のときは姓名を書き、2度目以降は姓のみでもよい。一般的に、敬称（先生、教授、博士など）は付けない。

(3)インターネット上の情報

不特定多数の人間によって頻繁に更新されるもの（例えば Wikipedia）や掲示期間の短いもの（新聞のネット記事等）は引用に適さない。

(4)孫引き

A という著者の文章を引用した B という著者の文章に基づいて、A の文章をレポート・論文の中で引用すること（孫引き）は原則として避けるべきである（原典に当たることが望ましい）。やむをえない場合は、注で両者の関係を明確に示す。